

はじめに

私は高校生のとき、法学部を志望して  
いました。法律を学ぶことが他人や自分を  
助け、守ることにつながると考えていたか  
らです。\*Society 5.0\*\* という言葉を知っ  
てからは、テクノロジーが生活に与える変  
化はどのようなものか、まだ見ぬ未来の社  
会がどうなるのかということにも興味を持  
つようになりましたが、技術革新には法律  
による規制が付きもので、やはり法律の知  
識を得ることは必須であると考えていまし  
た。だからこそ、iTLの学びはまさに私  
の興味に合致するものでした。

研究について

私はいま、プラットフォームにおける  
法整備をテーマとした中島ゼミに所属して  
います。女性であることで制約を受けた経  
験から、多種多様なすべての人が生き生き  
と働ける社会の実現に寄与したいと思って



ゼミの様子

いました。女性の活躍に焦点を当てること  
も考えましたが、女性を含むより多くの人  
が活躍できる社会がどうあるべきかを追究

「法律の学び」×「インターン」  
で開けたIT業界への進路

国際情報学部国際情報学科4年  
大阪府立住吉高等学校出身

藤田 彩水

したいと思い、また、iTLで学んだ情報  
学の知識も活かそうと思い、個人の研究  
テーマでは「リーガルテック」を扱うこと  
にしました。

コロナ禍でリモートワークが推進され  
ている際に話題となった「ハンコ出社」と  
いう言葉も、私が「リーガルテック」に関  
心を持つきっかけとなりました。「リーガ  
ルテック」の分野は、AIレビューや判例  
検索、デジタルフォレンジックによる調査  
など多岐にわたりますが、現在は、特に法  
務に直結する「電子契約・電子署名」に焦  
点を当てて研究を進めています。

EIP 研究発表会への参加

ゼミでは個人の研究のほかにも、ゼミ  
生全員で取り組んでいる研究があります。  
そのひとつが「破産者マップ」に関する研  
究です。

「破産者マップ」とは、破産手続開始決  
定の公告として官報に掲載されていた情報

を用いて、破産者の個人情報収集・デー  
タベース化したうえで、地図上にプロット  
してウェブ上に公開したものです。問題の  
発端となったサイトはすでに閉鎖されまし  
たが、同種のサイトが複数存在し、同様の  
情報が拡散されています。

この問題について個人情報保護委員会  
は、すでに公開されている情報をまとめ直  
して再公表する場合を一般化し、「第三者  
提供に該当し、原則として本人の同意が必  
要になる」としています。これに対し、私  
たちのゼミでは、すでに公開されている情  
報をまとめ直して再公表する場合のルール  
は、現行の個人情報保護法上存在せず、同  
法の解釈において第三者提供として解決す  
ることの是非についての検討を行いました。

その検討の成果は「『破産者マップ』と  
同種のウェブサイトに対する個人情報保護  
委員会の命令について」として論文にまと  
め、情報処理学会電子化知的財産・社会基  
盤(EIP)研究発表会において研究報告



を行うに至りました。

学会では、他大学の先生や学生、各機関の研究者の方々と同じプログラムの中で発表することができ、自身の考えを述べるだけでなく、社会におけるさまざまな課題に関する研究に触れる非常に貴重な機会となりました。

## 長期インターンシップでの取り組み

前述のとおり、ゼミで「電子契約・電子署名」について研究している私は、実際の利用者をより身近に感じ、声を拾うことで課題を肌で感じたいと考えるようになり、2021年3月から、クラウド型契約マネジメントシステムを提供している Contracts 株式会社でインターンシップ



ゼミの友人と学会発表

生として働き始めました。

主な業務は、プロダクトに関するユーザーへのアンケート調査とその分析、社内への共有で、日々、顧客体験の向上をめざしています。

アンケートの回答からは、プロダクトについてだけでなく法務の担当者が業務の中で感じている不満や煩わしさを知ることができました。また、顧客のことを考え、プロダクトの改善に働きかけの中で、顧客を第一に考える仕事をしたいと思うようになりました。

## これからの将来

3年次後期から本格化した就職活動を経て、私は情報システム構築のためのソフトウェア・ハードウェア製品を提供する企業への就職を決めました。

大学入学前には想像もなかった進路です。法律に興味があった私が、ITLでの学びを通してIT企業への就職を希望するようになったのです。情報技術が社会に与える影響や変革の素晴らしさを知り、このような技術が、私の理想とする多種多様なすべての人が生き生きと働ける社会の実現につながるかもしれないと考えるようになりました。

また、ゼミでの研究が長期インターンシップへの参加につながり、この経験によって、私が社会人としてめざしたい姿、関わりたいと思う仕事についても明確にすることができたのです。ITLに入学してから得ることができた知識や経験を活かして、卒業後も邁進していきたいです。